

愛媛県 宇和島市

「現存12天守」
の1つ宇和島城



国の重要文化的景観
遊子水荷浦の段畑

うわじまブランド
ロゴマーク



人口

約7万3,200人

面積

約468.19km²

学校数

市立小学校 30校
(休校2校を含む)
市立中学校 6校

児童生徒数

4,571人

ココロまじわうトコロ*

◎四国の西南部に位置し、歴史の趣と人情にあふれた伊達十萬石の城下町。温暖な気候と豊かな自然の恵みを生かし、柑橘栽培や鯛・ハマチ・真珠の養殖産業が盛んで、全国有数の生産量を誇る。じゃこ天や鯛めしなどの郷土料理や、年5回開催される闘牛も、観光客に人気。

電話 0895-24-1111 (代表)

URL <https://www.city.uwajima.ehime.jp>

*「まじわう」という言葉は「うわじま」を逆から読んだもので、「交ざり合う」「交差する」という意味を込めた造語。

若者のUターンを 促進する仕組みを 義務教育段階から構築

「シティセールスで 市の課題に立ち向かう」

鯛の養殖やみかんの産地などとして知られる愛媛県宇和島市。少子高齢化に伴う人口構造の変化や、市外への人口流出といった課題に直面する中、2017年、戦略的なシティセールスによる市の魅力化を公約に掲げて当選したのが、岡原文彰市長だ。

「地元の水産会社勤務を経て、市議会議員を務めていた私は、本市の魅力を市内外に十分にアピールできていない状況にもどかしさを感じていました。地域の持続的発展には、定住・移住人口や交流人口の増加が不可欠です。その実現のために、外部に向けて地域の資源を総合的に発信し、より多くの人々の心に『住みたい、帰りたい、連れていきたい』といった思いを醸成する必要があると考えました」

2018年に策定した「第2次宇和島市総合計画」では、市の将来像に「継承・共育・発信のまち」を掲げた。そこには、「先人が培ってきた宇和島の自然や歴史、産業を受け継ぎ、世代を超えて皆で学び、効果的に情報発信をする」という思いが込められており、教育を含むすべての施策がその方針に沿って展開されている。

「市長部局の地域活性化策に 総合学習を組み込む」

同市の人口減少対策の中で教育と深くかかわるのが、2018年に始めた「おかえりプロジェクト」だ。

「人口減少の要因の1つは、進学・就職を機とする若年層の市外への転出です。その流れを危惧する一方で、若いうちに地域の外に出て、多様な経験を積んでほしいという思いもあります。そこで、義務教育段階から進学や就職で本市を出た後まで、地域とのつながりを絶やさない施策により、『いつかは帰りたい』という思いを醸成する仕組みを考えました」(岡原市長)

おかえりプロジェクトは、4つのプロジェクトから成る(図)。まず、郷土愛の醸成を図るのが「学校自慢CM大賞」プロジェクトだ。地元ケーブルテレビ局の協力を得て、小・中学生が自校の魅力を紹介する映像を製作する。教育委員会とも連携し、各小・中学校では「総合的な学習の時間」などを充てて、魅力発見の活動やCM製作を行っている。

郷土愛を育みつつ、まちの活性化もねらっているのが、「高校生まちづくり課」プロジェクトだ。市内の高校生の有志が、「若者が地域に残れる・帰れるまちづくり」をテーマにワークショップなどを実施。同市の企画情報課が事務局となり、県内の大学や金融機関などの協力も得ながら新規事業を考え、市に提言するなど、まちづくりに直接参画する。ワークショップに参加した岡原市長は、参加者の成長を次のように語る。

「地域の状況を深く知るにつれ、地域の課題を自分に引きつけて捉えられるようになっていきます。『自分たちがまちを変えていく』というワクワク感と緊

